

小山三中コミュニティ・スクール通信

2022年3月7日 小山第三中学校学校運営協議会（コミュニティ・スクール）発行 第2号

コミュニティ・スクールとは

コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）は、学校と保護者や地域の皆さんがともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める法律に基づいた仕組みです。

小山第三中学校では平成27年度から市教育委員会の指定を受け導入しています。今年度も、PTAや自治会、ボランティア等の方々の代表と校長を含め8名の委員で、学校の現状や学校評価などについて協議を行いました。



6月1日の学校運営協議会

今年度のコミュニティ・スクールの取組

今年度は、6月1日(火)、9月28日(火)、12月16日(木)の3回、学校運営協議会を開催しました。2月14日にも開催予定でしたが、まん延防止等重点措置のため紙面によって学校評価に対する意見、コミュニティ・スクール全般に関する意見を発表しました。今年度、協議した内容は次のような内容です。

学校の運営方針の確認

学校運営協議会では、学校の運営方針についての確認や意見を述べています。運営方針として、生徒が学んだことを誇りに思える学校、保護者に信頼され地域に誇れる学校、教職員が働くことを誇りに思える学校づくりを確認しました。

地域学校協働活動について

「地域とともにある学校づくり」を進めるための取組として、文部科学省ではコミュニティ・スクールとあわせて地域学校協働活動を推進しています。（裏面の説明図を参照）

これまでも、小山三中では図書館ボランティアや読み聞かせボランティアをはじめとした各種ボランティアや三支会（小山第三中学校を支援する会）によるあいさつ運動や地域巡回指導、最近では大谷地区社会福祉協議会によるパンジーやベゴニア等の寄贈など、多くの活動が行われてきました。

今年度の学校運営協議会ではこれらの活動とさまざまな地域活動やボランティア等を結びつけ、地域学校協働活動として学校をさらに盛り上げられないか協議しました。

協議の中では、これまでのボランティア活動との違いは何かや、学校がどのような活動を必要としているのか、長く続けていくためにはどうすればよいのかなど、検討していかねばならない課題等が見えてきました。次年度はこれらを1つ1つ解決し、「地域とともにある学校づくり」をさらに進めていければと考えています。



どんな活動を誰が（どこが）が実施するとよいか協議しました。

学校評価について

学校評価については、生徒、保護者の皆さんに27の項目について評価をしていただきました。その後、教職員の評価結果ともあわせて考察し、今後の主な取組を三中だより「ひまわり」にまとめました。詳細につきましては、そちらをご覧ください。（ホームページにも掲載しています。）

その他の協議について

今年度は、学校の働き方改革についても協議しました。教職員が授業研究や生徒からの相談など、本来の業務に費やす時間を確保するためにはどうしたらよいか、地域学校協働活動とも関連付けながら改善が図られるようにしていきたいと思えます。

今年度の主な地域連携活動

6月、大谷地区社協からペゴニアの苗をいただき、福祉委員の生徒と一緒に花壇に植えました。昨年度もパンジーやビオラの苗をいただいております、季節に合った花が三中の花壇を彩りました。



大谷地区社協の方と福祉委員会の生徒がペゴニアの苗を花壇に植えました。

また、三支会（小山第三中学校を支援する会）がこれまで行ってきたあいさつ運動や地域巡回指導などの活動が認められ、県教育委員会から感謝状をいただきました。

さらに、今年度は美術部が小学校の「児童を笑顔にしたい有志会」から黒板アート制作を依頼されて小学校に展示するなど、地域と連携した活動を行いました。

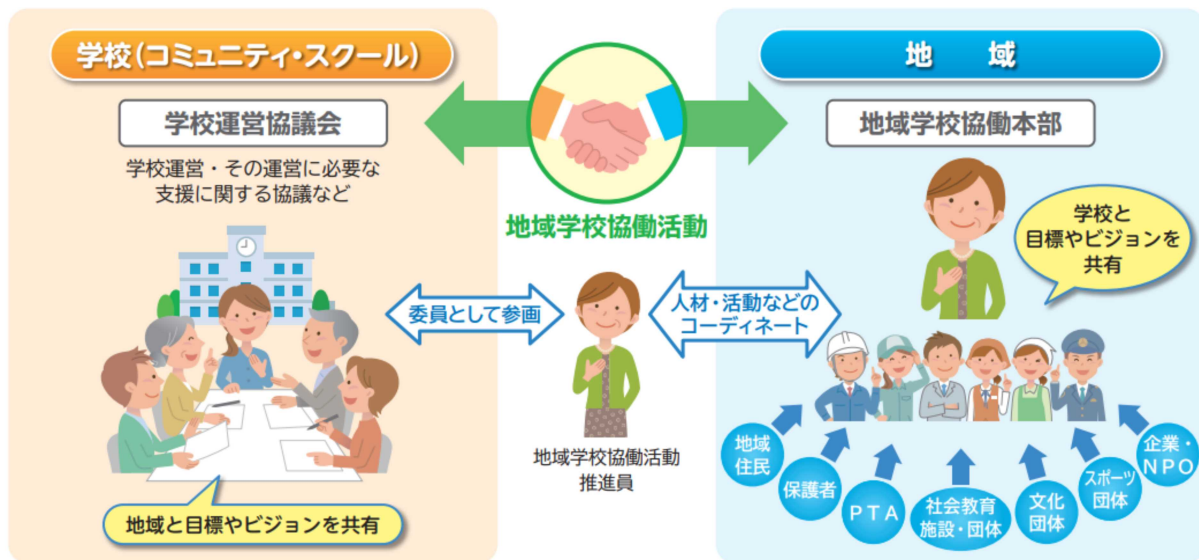


県教委から三支会への感謝状



美術部制作黒板アート

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一つの取組として



コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に進めるためには、**まず関係者で目標やビジョンを共有することが重要で、学校運営協議会の協議や熟議^(※)等がその役割を果たします。**その結果を踏まえ、幅広い地域住民等が参画することによって、**教育活動や地域学校協働活動の充実や活性化**につながります。

学校運営協議会と地域学校協働本部は、それぞれがもつ役割を十分に機能させ、**一体的に推進することで**、相乗効果を発揮し、学校運営の改善と地域づくりに資する活動が一層進んでいくことが期待されます。

※「熟議」とは・・・多くの当事者が「熟慮」と「議論」によって問題の解決を目指す対話のこと。様々な立場の関係者が一つのテーブルにつくことで、新しいアイデアや考え方が生まれます。